

総合単元名	自分の役割に向かって		6月～ 7月	全9時間
めざす子ども	自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす子			中心項目 4－(3) 関連項目 4－(6)
ねらい	自分の役割と責任を自覚し、協力して主体的に責任を果たしていこうとする態度を育てる。			
<p>単元設定の理由</p> <p>6年生となった児童は、最高学年としての自覚を意識し始め、様々な場面でその役割に取り組んでいる。しかし、決められた仕事をする事が責任を果たしていることだという思いが強く、集団の成員相互のかかわりの大切さに気付いたり、その喜びを見出したりしている児童は少ない。そこで、集団成員相互のかかわりの大切さや協力して目標を達成するよさに気付き、主体的に責任を果たしていこうとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。</p>				
時期	教科・特別活動 総合的な学習の時間等	道徳の時間	常時活動 家庭との連携	子どもの意識の深まり
6月	<p>①学校行事 6月(2時間) 「修学旅行」 自分の係の仕事に責任をもちながら、協力して活動することができる。</p>	<p>②<役割と責任の自覚> 4－(3)5月(1時間) 「森の絵」(本時) 文男の言葉を聞いたえり子の気持ちを考えることを通して、進んで役割を果たすよさに気付き、自分の役割を自覚して進んで責任を果たそうとする心情を育てる。</p>	<p>(◆縦割り班掃除) リーダーとして、下級生に必要なアドバイスを考えながら掃除を進めることができる。</p>	<p>①自分の係の仕事をきちんとしよう。みんなのために考えて行動しよう。 ◆縦割り掃除で班長としての仕事はきちんとできているのかな。 ②どんな役割でもその役割がなければ劇ができない。全部大事な役目だ。自分も役割をきちんと果たしていきたい。</p>
	<p>③家庭科 6月(2時間) 「調理実習」 自分の役割を、責任を持って行い協力して調理実習に取り組むことができる。</p>	<p>④<愛校心> 4－(6)6月(1時間) 「きえた紙くず」 たけしの言葉を聞いたわたしの気持ちを考えることを通して、主体的に学校のために行動する大切さに気付き、みんなで協力して、よりよい学校をつくっていこうとする心情を育てる。</p>	<p>(★委員会活動) 自分の役割を、責任をもって果たすとともに、自ら新たな役割を見つけ、進んで活動することができる。</p>	<p>③自分の係の仕事をきちんとしたらスムーズに調理実習ができるな。責任をもって取り組むのはいいな。 ④学校のために自分から進んで行くことは気持ちよいものだな。 ★委員会の仕事は学校をよくするためである。できることをしていきたい。 ⑤学校の選挙のため、自分にできることは何かな。みんなと協力して仕事をしたいこう。</p>
7月	<p>⑤学級活動 6月(1時間) 「児童会選挙に向けて」 選挙運動に向けて、自分の役割を自覚し、協力して活動することができる。</p>	<p>⑥<役割と責任の自覚> 4－(3)7月(1時間) 「メンバーとして」 みんなの言うことをじっと聞いていたぼくの気持ちを考えることを通して、役割を果たす責任の大切さに気付き、常に自分の役割と責任を果たそうとする態度を育てる。</p>	<p>(■通学班) 班長として、下級生の手本となる態度をとったり安全に登下校させるために進んで行動したりすることができる。</p>	<p>⑥みんなのために自分の役割を果たすのはいいものだ。これからも責任をもってやり遂げるようにしていきたいな。 ⑦自分の役割を果たして選挙を成功させてうれしかったよ。これからも自分の役割を責任をもって果たしていけるように頑張るぞ。 ■リーダーとして下級生のために自分ができていることをしたいこう。</p>
	<p>⑦児童会活動 7月(1時間) 「児童会選挙」 選挙に向けて、自分の役割を自覚し、協力して活動することができる。</p>	<p>自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす子</p>		

「道徳の時間」学習指導案

指導者 池田 明子

- 1 日時 平成23年5月27日(火) 第6校時
- 2 学年 第6学年 男子16名 女子12名 計28名
- 3 主題名 みんなの力で 中心項目 4-(3) 〈役割と責任の自覚〉
関連項目 4-(6) 〈愛校心〉
- 4 ねらい 文男の言葉を聞いたえり子の気持ちを考えることを通して、進んで役割を果たすよさに気づき、自分の役割を自覚して進んで責任を果たそうとする心情を育てる。
- 5 資料名 森の絵 (出典:「みんなのどうとく」 学習研究社)

6 主題設定の理由

- 人は必ず何らかの集団に属している。その集団は、家族という小さなものから、学校や地域など、少しずつ輪が広がっていく。その中で自分の役割と責任を自覚し、協力して主体的に責任を果たしていくことで、充実した生き方ができる。

この時期の児童は、最高学年としての自覚をもち、様々な場面で頑張っている。しかし、ただ自分に与えられた仕事のみをすればよい、という考えにとどまったり、集団生活向上のよさに気づけなかったりすることもある。そこで、集団の一人一人のかかわりの大切さや協力して目標を達成することのよさに気づかせ、自分の役割や責任を果たしていこうとする気持ちを持たせることが大切であると考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、最高学年になり、一人一人リーダーとして頑張ろうという気持ちをもっている。このことは事前アンケートの「リーダーとして自分の役割を意識して行動している。」に100%の肯定的回答からもうかがえる。また、「集団の中で責任ある行動ができています。」には97%、「リーダーとしてみんなと一緒に活動する楽しさや役に立つ喜びを感じている。」には92%の肯定的回答があり、役に立つ喜びを感じ、自分の役割を果たそうと行動している意識が高いことがうかがえる。しかし、個別の反応では「時々ふざけてしまう。」「遊んでしまう。」という反応もあり、集団の中で何のために役割を果たすのか、責任を果たすとはどういうことかという認識が十分ではない。また、役に立つ喜びを感じている児童も、「1年生にありがとうと言ってもらえた。」などの1対1の関係でのことが多く、集団全体の向上の喜びまでには至っていない。

個別に見ていくと、アンケート「集団の中で責任ある行動ができています。」には肯定的な回答はしたものの理由には「気楽にやっていけるから。」と記述し、また、役に立つ喜びについては「役に立っているようには思えないから。」と回答した児童がいる。これは自分の役割をあまり意識せず、またがんばっている姿が価値あるものだと十分自覚してないためと考えられる。

- 本資料は、どの児童も学校生活の中で経験しているような身近な内容なので、登場人物に共感しやすい話である。えり子のクラスで劇をすることになったが、えり子は自分の希望する役にはなれなかった。道具係として取り組むことにはしたが、どこか投げやりな気持ちのえり子だった。そんな時、衣裳係として慣れない手つきで一生懸命取り組んでいる文男の言葉を聞いたり、仲間のがんばっている姿を見たりして、自分の役割に全力で向かうようになるという内容である。それぞれの役割の大切さと責任感について考えることができる資料である。

導入では、全校遠足での役割を想起させ、資料へつなげていく。資料提示は、分割提示をしながら、主人公の思いに沿わせて考えさせるようにしたい。中心発問では、文男の言葉の意味を考えさせることで、協力して責任を果たすことの大切さに気づかせたい。終末では児童の作文を読み、自分の役割を自覚して進んで行動していこうとする意欲を高めたい。学習後は、修学旅行や児童会役員選挙などを通して、積極的に役割を果たしていこうとする気持ちを高めていきたい。

「伝え合う」については、学習プログラムの内容を本時の内容とかわらせながら考えを深めるという段階である。本時は、ワークシートにより自分の思いや考えをもたせる。また、ペアワークにより一次的に価値を深めさせる。

7 準備物 場面絵, BGM

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)改善点(◎)
導 入	1 全校遠足での体験を想起する。	○全校遠足では、どんな役割をがんばりましたか。 ・安全に気をつけて歩けるように声をかけた。 ・みんなが楽しく遊べるように誘った。	○全校遠足の旗を提示し、役割を想起させ、資料へつなげる。
展 開	2 資料「森の絵」の前段を聞き、えり子の気持ちを話し合う。	○えり子が絵筆を持つ手に力が入らないのは、どんな気持ちからでしょう。 ・くやしいな。 ・やっぱり女王役をしたかったな。 ・やりたかった役になれなかったからやる気が出ないよ。	○自分の思いが通らず、くやしい気持ちが心の奥にあることをおさえる。
	3 資料後段を聞き、文男の言葉を聞いたえり子の気持ちについて話し合う。	◎文男の「だれかがやらないと、劇にならないじゃないか。」という言葉が心の中をかけめぐっていた時、えり子はどんなことを考えていたでしょう。 ・それは分かっているけれど・・・。 ・文男はどうして得意じゃない仕事を楽しそうにできるんだろう。 ・中途半端な気持ちでしていた自分はよくなかったな。 [補助発問] ●えり子と文男の気持ちはどんなところが違ったのでしょうか。 ・えり子はなりたくない役は本気でできなかった。自分がやりたいことをしたかった。でも文男は、得意じゃない役でもがんばってしている。楽しそうだ。 ・えり子は自分が中心。文男はみんなのために自分ができていることをしていこうと思っている。 ●自分ひとりなまけていてもよいのではないのでしょうか。 ・みんなで協力してやらないとできない。 ・それぞれ一人一人が役割があるのだから、それをきちんと果たさないと劇はできない。	○えり子と文男の思いを対比させながら道徳的価値のよさに気付かせていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ワークシートにより自分の思いや考えをもたせる。</div>
	4 自分の体験を振り返る。	○のびのびと皿にポスターカラーをときはじめて時、えり子はどんな気持ちだったでしょう。 ・最後までこの係をやりきるぞ。大切な役だ。 ・みんなと協力して劇を成功させよう。	
終 末	5 友達の作文を聞く。	○えり子のように、みんなのために自分ができていることをしていこう、と思えたことはありますか。 ・委員会の時、めんどくさくても頑張っている。自分がしないとみんなが困るから。 ・全校遠足では、リーダーやみんなが困らないように、サブリーダーとして自分ができていることをしようと考えて後ろから声をかけた。みんなが安全に歩いてうれしかった。	★役割への責任感と主体性を感じ取ることができたか。 ○児童の作文を読み余韻を残す。 ○BGMを流す。

森の絵

文男と
えり子の
さし絵

好きなじゃないししゅう(係)

えり子
女王役になれなかった

めぐみの
演技を見て
いるえり子
のさし絵

文男

えり子

どんな役でも大切だからがんばろう。
みんなのために自分ができることをしていこう。

みんなで協力してやらないとできない。
それぞれの役割を果たさないと劇は成功しない。

私も得意な絵を生かして一生懸命頑張ろう。
みんなと協力して、劇を成功させよう。

くやしいな。
やりたかった女王役になれなかったからやる気が出ないよ。

分かってるけど。
得意じゃない仕事なぜ楽しそう。

気つく

ポスターカラーを混ぜているいるえり子のさし絵

10 ワークシート

◎今日の感想を書きましょう。

◎ 文男の「だれかがやらないと、劇にならないじゃないか。」という言葉が心の中にかげめぐっていた時、えり子はどんなことを考えていたでしょう。

えり子と文男の絵

資料名
森の絵

名前